

# 観光振興対策特別委員会記録

開催日時 令和2年9月4日(金) 13:04~14:51

開催場所 第1委員会室

出席委員 8名

松本 宗弘 委員長

和田 恵治 副委員長

樋口 清士 委員

乾 浩之 委員

佐藤 光紀 委員

中野 雅史 委員

岩田 国夫 委員

藤野 良次 委員

欠席委員 なし

出席理事者 土屋 観光局長

岡野 地域デザイン推進局長 ほか、関係職員

傍聴者 2名

## 議 事

(1) 9月定例県議会提出予定議案について

(2) その他

### <会議の経過>

○松本委員長 それでは、提出予定議案、その他の事項も含めまして、質問があればご発言願います。

○佐藤委員 私からは大きく分けて3点お聞きします。

まず1点目は、なら歴史芸術文化村の交通アクセスの検討状況についてお聞きします。

これまで県のバスターミナルでは、単体での運用しか検討されておらず、ターミナル機能を生かし切れていない状況です。しかし、バスターミナル、もしくはバスロータリーがあれば、利便性の向上によって顧客の満足が得られることにより、施設の集客性を飛躍的に高めることができると考えています。

その点、今の状況も踏まえて少しばかり掘り下げてお聞きしてもよろしいでしょうか。

○三原なら歴史芸術文化村整備推進室長 なら歴史芸術文化村への交通アクセス、特に

バスでのアクセスにつきまして報告させていただきます。

8月31日に東京で、なら歴史芸術文化村構想等検討委員会が開催されました。そちらでも関係委員へ報告を申し上げたところですが、かねてより、なら歴史芸術文化村への特に公共交通機関を使ったアクセスについては、最寄り駅の天理駅から少し距離があるということで、二次交通が課題になっていると認識しています。

天理駅から、なら歴史芸術文化村の施設までをつなぐシャトル機能のバスに加えて、なら歴史芸術文化村から他の文化施設等への連結ができないかという点、また、集客を向上させようという観点から、例えば奈良市内や橿原市内等の人が多く集まる場所にお迎えに行く形がとれないかということ幅広に検討したいと思います。

当然、最寄り駅から施設まで、民間事業者の路線バスが新設されることが望ましいとは思いますが、採算面等の課題もあります。路線バスでの検討、調整に加えて、いわゆる施設バスを活用して集客につなげる機動的な動線が計画できないかについてもこれから検討してまいります。

課題としては、ルート設定、事前予約制や定時運行という運行形態、あるいは経費負担と運賃の考え方などの課題もあります。

これらにつきましては、庁内の関係課とも相談をしながら検討を進めますが、専門的な要素もありますので、もろもろの調査、分析、あるいは検討について、専門の事業者等を活用するかについても並行して考えてまいります。

**○佐藤委員** 奈良県コンベンションセンターもそうでしたが、ターミナル機能を生かし切れない状況で開業してしまっている施設があるかと思います。中町の道の駅もそうですし、先ほど説明を受けた平城宮跡歴史公園南側地区にもバスが乗り入れることもあるかと思います。

それぞれの施設が駅に直結しているわけではありませんので、バス戦略をもう一度検討し直して、オープンする前の施設についてはしっかりと検討して戦略に盛り込んでいただきたいと思います。

それぞれの担当課が単体で検討している状況がこのことを招いているかと思います。その点、土屋観光局長に旗振り役になって、つなげていただきたい。

次に2点目ですが、先ほど報告を受けました平城宮跡歴史公園について、ヒアリングをさせていただいた上で分かっている範囲をお聞きします。

まず、東側の地区整備計画と県営公園区域基本計画については、重複していることが

多々ありますので、この点について併せてお聞きします。

これからパブリックコメントを実施して本年度中に計画を策定し、令和3年度に東側地区基本計画に着手、県営公園区域については都市計画を策定し、目標としては令和5年以降に整備に着手するとの説明をお聞きしましたが、まず、用地取得の状況についてお聞かせください。

また、ともに令和5年度以降の着手ということで、完成は早くても令和6年度以降になってくるかと思えます。2025年には「大阪・関西万博」が開催されますが、万博開催前に開業するのか、万博後に開業するのかによって意味合いは全く違ったものになります。

これらの用地については史跡のど真ん中に当たりますが、試掘調査の期間をどのようにお考えでしょうか。その点、もう少し説明をいただきたい。

**○中岡平城宮跡事業推進室長** まず、平城宮跡歴史公園南側の用地取得につきましては、積水化学工業株式会社の工場跡地ということで、積水化学工業株式会社と用地取得や都市計画の手続を進めていく方針です。年内に積水化学工業株式会社と土地売買に関する契約を締結したいと考えています。

今年度に当地区の基本計画を策定する予定であり、同整備は国の交付金等の有利な財源を活用して進める方針で、現在進めている東側地区整備と調整しながら、計画的に整備を進める考えです。令和7年度に開催される「大阪・関西万博」も見据えながら取り組んでまいります。

続きまして、東側の用地取得の状況ですが、全地権者30名のうち、大半の了解を得まして、土地の測量や建物等の補償調査に着手しています。8月末時点で、30名のうち9名と補償契約を締結しました。相手のあることですので、今後も引き続き、丁寧できめ細やかな用地交渉を心掛けます。

現在、鋭意用地交渉に取り組んでおり、用地買収が完了していない時点で、完成時期を明言することは困難な状況ですが、県としては、令和4年度までに用地買収を完了させ、できるだけ早期のオープンを目指します。

**○佐藤委員** 公園については基本計画を策定し都市計画の決定、その次に整備計画を策定して基本設計を行うかと思えます。当然、用地取得にも時間がかかると思えますし、いつまでという質問に答えられないのは仕方がないと思えます。

加えて、ここは史跡ということで、試掘調査の期間をどれぐらい考えておられますか。

予備日程などを加えた上で計画されているということでしょうか。

○中岡平城宮跡事業推進室長 試掘調査の期間につきましては1年間と考えていますが、用地買収の終わったところから随時試掘に入るといったことも検討してまいります。

○佐藤委員 あまり聞きたくないのですが、もし遺跡が出た場合、こういったフローになるか確認させてください。

○中岡平城宮跡事業推進室長 その場合は、部分的な計画の変更もあり得ると考えています。

○佐藤委員 ということは、用地買収を全部済ませてから着手するわけではなく、用地買収をしながら、試掘をしながらでも計画を進めていくという認識でよろしいですか。

○中岡平城宮跡事業推進室長 その認識で結構です。

○佐藤委員 細かく聞いてしまって申し訳なかったのですが、それでよろしいかと思えます。

万博開催前に開業できるか、後になってしまうのかによって戦略に大きく違いが出てくるかと思えます。やはり万博前に開業させるのが良いと思えますし、内容もこれから詰めていかなければならないと思えますので、是非今後も細かく報告をいただきたい。

計画段階で万博に間に合わないということになれば、大きな計画変更を余儀なくされるかと思えます。

次に、朱雀大路東側地区整備について、計画の概要をお聞きしましたが、県が計画するのであればこういった堅い路線でいかれるのはよく分かります。ただ、現状において来場者数が全然稼げていない、人が集まる施設となっていない中で、この延長線上の歴史、伝統、文化に特に重きを置いた造りになっているかと思えます。こういった点がどうなのかなと懸念しています。

その点、積水化学工業株式会社の工場跡地、県営公園区域は多目的エリアとしてフレキシブルな使い方ができるかと思えます。特に注目したいのが、資料では駐車場という使い方が明記されていますが、ここにはバス駐車場が含まれますか。その規模などを教えていただきたい。

また、このバス駐車場にバスロータリーやバスターミナル機能を付与させる計画は盛り込まれているか確認させてください。

○中岡平城宮跡事業推進室長 県による用地取得後は速やかに有効活用を図る考え方でして、平城宮跡公園内に附属する駐車場を年度内に整備する予定です。

当駐車場は、奈良公園バスターミナルを利用する観光バスの駐機場等としても有効利用する方針です。また、ぐるっとバスを活用して、奈良公園や奈良県コンベンションセンター、平城宮跡を巡るアクセス環境の向上を図る考えです。

○佐藤委員 大体何台ぐらいの規模ですか。一般駐車場としてもどれぐらいの規模ですか。また、有人管理、無人管理のどちらで設計されますか。その辺りを確認させてください。

○岡野地域デザイン推進局長 南側地区の駐車場の計画については、乗用車、バスの利用を考えています。バスにつきましては、平城宮跡に観光目的で来るバスと、ぐるっとバスの駐車を考えています。ぐるっとバスについては、以前からご紹介していますように、今、西大寺方面からは無いのですが、西大寺の南側の整備が進みますと、西大寺方面からのバスも入れるように計画したいと考えています。

併せて、奈良公園バスターミナルの駐機機能としても、土地を確保できますので、シーズン毎にできるだけ有効に使えるようにオペレーションしていきたいと考えています。こうしたことを踏まえ、駐車場の規模を検討している段階です。

今後、現在の利用状況や万博が開催された際において、当然ここに誘致したいと思っていますので、将来の利用台数も含めた上で詳細に検討してまいりたい。

○佐藤委員 的確な答弁ありがとうございます。少し懸念しているのが、バスのロータリーとかバスターミナル、バス駐車が施設に付随するものと考えるときに、進入経路、転回、駐機スペースが意外と場所を取ります。建物を造ってそれに付随させる形にすると、私の経験上、大概使いづらいバスターミナルが出来上がってしまいます。

今、奈良公園バスターミナルも苦しい状況です。奈良県コンベンションセンターのバスターミナル機能も生かしていかなければなりません。なら歴史芸術文化村でもバスの乗り入れがなければ集客が難しくなると思います。

バス戦略については、先ほど土屋観光局長にもお願いしたとおり、全体的なイメージを練り込みながら、ここの多目的エリアの駐車場は真っ白な状態ですから、最初の段階でしっかりとマーケティングしていただき、設計に盛り込んでいただきたい。これから計画されていくと思いますが、これはつぶさに報告を頂きたい。

次の質問をさせていただきます。この計画の成功の鍵は、ある特定層のターゲットではなく、地元で愛され、小さなお子さまに至るまで興味を引けるか、歴史、伝統、文化に関心のない方を引き寄せられるかにあると思います。

これまではマーケティングを行わずに開発したり、県の意向を強く反映し過ぎて、利用者に受け入れられず当初の目標を大きく下回ったりと、使い勝手の悪い箱物行政と言われても仕方がない状況です。

マーケティングは当然ですが、専門家だけではなく、高校生や大学生、主婦やサラリーマンなど広く募集をかけた上で、企画、検討委員会などで検討を進めていく必要があると思います。この点について岡野地域デザイン推進局長にお伺いしたい。

**○岡野地域デザイン推進局長** 平城宮跡歴史公園は、国営エリア、県営エリア、それから南側のエリアと、かなり広大な用地となっています。当然、歴史的な雰囲気も大切にしながら、いろいろな特徴を出して、歴史や憩いという意味合いでも、多くの方が楽しめる公園にしていきたいと思います。

今は検討委員会では、歴史に重きを置かれている方々に集まってもらっていますが、様々な方に意見を伺いながら計画を立てていきたいと思っていますので、今後ご指導よろしくお願いします。

**○佐藤委員** ぜひそのようにしてください。私からの要望ですが、なら歴史芸術文化村等の検討委員会も広く募集するということですが、毎回東京で会議をするのは避けていただきたい。奈良県内の地場の専門家にまず見ていただく等、コロナ禍でいろいろと検討していかなければならないこともあります。

そういった方が関東にいらっしゃるとしても、わざわざ行く必要もないと思います。Zoom会議等のオンライン会議を駆使していただき、より良いものをつくっていただきたいということを要望としてお伝えします。

最後の質問ですが、今騒がれている「いまなら。キャンペーン」についてお伺いします。

まず、この事業の概要をご説明ください。その中で販売方法の検討がされたかどうかもお答えいただけますでしょうか。

**○谷垣観光局次長（観光政策担当）** 県内宿泊等割引キャンペーンについて、概要を説明させていただきます。

キャンペーンの愛称は「いまなら。キャンペーン」です。旅行会社、宿泊施設での申込み受け付けを8月26日から、インターネットでの申込み受け付けは8月31日から開始しました。

キャンペーンの利用対象者は奈良県民です。割引金額につきましては、旅行プランの

価格帯ごとに最大70%程度の割引となるよう設定しています。利用方法は、宿泊施設、旅行会社で申込みを行い、コンビニエンスストアで購入した割引クーポンで支払う方法と、インターネットサイトから申し込む方法を設定して実施しています。

クーポンの販売方法につきましては、経済対策として早期に事業を開始できること、利用者にとって便利で使いやすいことの2点を中心に勘案しまして、既存インフラを活用できるコンビニエンスストアでの発券とオンライン旅行申込みサイトの2種類を設定したところです。

○佐藤委員 コンビニでの販売数とインターネットでの販売数はそれぞれどれぐらいになりますか。

○谷垣観光局次長（観光政策担当） コンビニで販売した枚数は1万4,500枚です。インターネットでの販売枚数は2万3,300枚と設定していますが、これは売行きにより多少増減していく形になります。

11月に販売する分がまだ原資として残っていますので、それを合計したものが販売枚数となります。

○佐藤委員 コンビニで販売した分、ネットで販売した分、その他という3カテゴリーに分かれるかと思えます。後ほどで構わないので、その数字を教えてください。疑義がありますので、確認させていただきます。

これはあつという間に売れてしまったので、私も妻から欲しかったのにと怒られました。本当にあつという間でした。この売れ方は少し異常だと思い、私なりにいろいろと調査をしていますが、買占めに走られた方がいるのではないかと聞き及んでいます。

買占めについて、最悪の場合は転売される懸念もありますが、これらへの対策を講じられた上で、今回の販売に至っていますか。

○谷垣観光局次長（観光政策担当） コンビニ販売につきましては、不正な買占めや転売のリスクがあることから、奈良県内のコンビニでのみ発券を可能としたということと、最高金額ぎりぎりまで事前にお支払いいただき、返金不可の取扱いとするなどの対策を取らせていただきました。

また、転売防止につきましては、クーポンに転売禁止の文言を記載するとともに、事務局でも定期的にオークションサイトをチェックし、随時通報する対策を取っていますが、現在のところ転売の事実は見つかっていません。

○佐藤委員 話を進めますが、今回5億円の補正予算が組まれています。広く行き渡る

ような販売方法と不正対策がされない状況、そして今回のようにわずかな期間でバーンと売れてしまうと、買いたくても買えない人が続出します。予算執行の際にそういったことを防ぐための対策を講じて補正予算を考えられていますか。

そうでなければ、我々日本維新の会としてもこの補正予算に賛成するわけにはいきませんので、その点お聞かせいただきたい。

**○谷垣観光局次長（観光政策担当）** 県内宿泊等割引キャンペーンにつきましては、8月26日の事業開始以来、県民の皆様、委員以外の県議会議員の皆様を通じたものも含めてたくさんのご意見を頂戴しています。

6月定例会で補正予算をお認めいただいて以降、早期の事業実施を図ることによりかなり重点を置いて取り組んできたところですが、ご期待に添えなかった部分については十分に受け止めさせていただき、今後の事業執行に向けて運用改善に取り組んでまいる所存です。

**○佐藤委員** 結果として事実是不変えられないことですし、やっていることは全然間違いではないと思います。事業としてはありだと思えますけれども、手に渡らなかった方が相当いらっしゃると思います。私のところにも、何とかして手に入らないかとの声が寄せられています。私に言われても入手できないという話をさせていただいています。広く活用していただくということでは、まとめ買いや買占め、転売は絶対にあってはならない話です。税金で運用されることなので、そういうことのないように、期間を分けて第1弾、第2弾、第3弾という形でも行えたかと思えます。

少しでも早く事業を実施したかったこともあり、改善点も多くあったという発言もありました。まだ集計も進んでいない状況も垣間見えましたので、集計が終わり次第報告していただきたい。経済労働委員会でも私の会派から質問があると思います。時間が大分迫っていますが、予算審査特別委員会でもしっかりと説明できるように、検討をよろしくをお願いします。

**○樋口委員** 私から3点、質問並びに要望させていただきます。

1点目ですが、先ほど、佐藤委員からも質問のありました「いまなら。キャンペーン」の件についてです。コンビニ販売は即日完売し、インターネットのサイトからの申込みについても、見えていますとほとんど売り切れに近づきつつある状態です。そこに向けて追加で補正予算を組んでいただいて非常にありがたいと思いますが、予算執行の際は考えていただく必要があります。



即日完売という話を聞いて、すぐに知り合いの事業者、地元のエージェントと話をしました。一般社団法人全国旅行業協会奈良県支部の会員は50社ありますが、そこに向けて、どれだけ取り扱えたかというアンケートに協力してもらいました。100%返ってきていないので全ての数字とは言えないのですが、50社のうち39社から回答を頂きました。そのうちキャンペーンに参加したのが33社、クーポンを取り扱えたのがそのうちの9社だけだったとのこと。

割引の金額ベースでいきますと、コンビニでの割引分が1億1,000万円ほどあったと事前に聞いているのですが、そのうち地元エージェントの取扱金額は150万円ほどです。1.3%から1.4%と非常に小さな数字になっています。

さらに、キャンペーン初日から、クーポンが手に入らないのでお願いしたいといった問い合わせの電話がどんどん入ったのですが、地元エージェントでも手持ちがないということでお断りしたり、クレームの苦情受付係のような状態になって混乱が起きたと聞いています。

また、宿泊施設でも、直接予約の電話を承っても売り切れであったり、予約してクーポンを買いに行ったけれども入手できないという状況があつて、結局キャンセルの対応もしなければならないと、それぞれの業種で様々な問題を抱えていたと聞いています。

さらに、現場では、コンビニクーポンが即日完売した後にPR用のポスターが届いたとのことで、これをどうすれば良いのかと、地元エージェントが相当怒っておられます。

また、JTBやOTAのじゃらん等が全て入り口になっているため、県で登録している地元エージェントには全く恩恵がないという意見も聞かれています。

様々な問題を感じておられ、改善したい意向とのことですが、一番の問題はどこにあったのか。問題が分からなければ改善のしようがないので、現時点で認識されている問題を挙げていただけますか。

**○谷垣観光局次長（観光政策担当）** 問題点については多くの方から様々な意見を頂いています。コンビニエンスストアでの発券とオンライン旅行申込みサイトの2種類を設定した理由は、経済対策として早期に事業を開始するために既存のインフラを活用することを目指したということと、利用者にとって便利で使いやすいということで、高齢者でも使いやすい宿への直接の予約や旅行会社の窓口で予約できるコンビニエンスストアでの発券を使う方法と、早くて便利なオンライン旅行申込みサイトの2種類を設定させていただきました。

コンビニエンスストアでの発券につきましては、不正な買占めや転売のリスクがあることから、県内でしか買えないようにすると共に返金不可にした上で、当初はインターネット販売に比べ転売のリスクのあるコンビニ発券の部分を少な目に設定させていただきました。

この設定の下、コンビニクーポンが即日完売になった理由としては、大きく2点あると考えています。

1点目は、先ほど申し上げたように転売の心配がありましたので、そのリスクの少ないインターネット販売を多めに設定したため、コンビニエンスストアでの発券枚数が少なかったことです。

もう一つの原因と考えていますのが、割引率が7割と高く、このキャンペーンへの関心が非常に高かった中で、インターネット販売は8月31日から開始されたのですが、それに先駆けてコンビニクーポンの販売を8月26日から開始したことから、このキャンペーンの利用者が、もともとはインターネットでの申込みを考えていた人も含め、店頭販売のコンビニクーポンの購入に集中してしまい、結果として即日完売してしまったと考えています。

販売枚数の設定、あるいは販売開始のタイミングをずらしたことが、今回の事態が起きた要因だと考えていまして、この辺りは改善の手だてを考えるポイントになるかと考えています。

**○樋口委員** 分かりました。そこは改善してください。

この事業は、疲弊している県内の観光関連の事業所を何とか救っていくこと、支援していくことが一番の目的です。先ほども言いましたが、県外の手が取り仕切る形になっていて、そこにお金が出ている。県内の地元エージェントにはほとんどお金が流れていない。この状況は何とかなければならないと思います。

例えば石川県とか長野県では、地元エージェントに対して、クーポンの枠を渡してその中でやりくりしてもらおうことで、要は県外にお金が出ていかない体制をつくっています。

地元のエージェントに行って、旅行の相談をしながら、このクーポンを使えますよという割と落ち着いた雰囲気想定されていたと思うのですが、そこへ戻していくということも必要なのではないのか。

5億円という補正予算が組まれて、そのうちのどれだけを地元へ回していくのかはい

ろいろな判断があると思います。利便性を考えて全部は駄目だということもあるだろうと思いますが、その辺りのやり方を考えていただく必要がある。システムというよりも、その枠の渡し方も含めて考えていただく必要があるかと思います。

新聞あるいは報道で即日完売と出たため、インターネット販売分もなくなっているイメージを持っている方もいるようです。「いまなら。キャンペーン」の広告が上がっていますが、「もう完売したのに今頃何をやっているのか」という書き込みを見ました。インターネット販売分はまだ残っているということで広告を出されていると思うのですが、そういった認識の方もいらっしゃるということを知っていただきたいと思います。

当初のスタート段階で、地元エージェントはほとんどクレームだけを受ける状態でした。クーポンを取り扱えていないという印象が地元エージェントの中にあるとすれば、これから積み増ししますと発表したときにどこへ向かうかをきっちりとお伝えする必要がありますだろうと思います。広報の仕方が大事になってくると思います。どこへ行けばクーポンを獲得できるかという広報により、その辺りをきっちりお知らせできるようにしていただきたいと思います。

例えば、既に配っておられるポスターがもったいないので、第2弾はいつから、こんな形でということを上からペタッと貼れるシールのようなものをお配りして、そこでそれぞれの事業者にアナウンスしてもらっても含めて、いろいろ工夫をしていただく必要があると思います。その辺りも考えてください。

また、9月23日に経済労働委員会が開催されますので、できればそこでこれからどうするかという答えを頂ければありがたいと思います。

後の話になりますが、この事業の効果を把握、測定いただく必要がある。お金が分配されたとか、付加価値としてどういった行事が開催された、地域に還元されたかを把握する必要があります。商品の企画をみながら等、事業の効果がどこまで及んだのかについてはきっちり把握いただく必要がある。この件については以上です。

次に感染症対策について、お伺いします。感染症対策の観光振興というところで、これも補正予算が通って上積みという形になってはいますが、7月以降の実施分について、これまでの実績を把握されておられるでしょうか。予算が足りないから上積みしましたという説明があったので、今までどこまで来ているのか把握されていればお願いします。

**○桐田ならの観光力向上課長** 6月定例会で承認いただきました補助金ですが、7月15日から8月7日の間に募集させていただきました。非常に多くの申請をいただいたの

ですが、その中には補助の対象外としていた消耗品、人件費、老朽化した施設の改修費等々が含まれていました。それらを除きますと、おおむね約2億円が補助対象になります。

○樋口委員 ということは、申請があった補助対象がターゲットとして現れて、そこは当初1億円だったため、それで足りない分をプラスアルファして補正予算を組んだということでしょうか。

なぜこういうことを聞いているかというのと、本来全ての観光施設あるいは関連施設が感染対応してくださいということが県としての望みであるはずですが、申請がなかった施設でも感染対応できているところがあるかと思いますが、こういう制度を知らずに補助申請ができていない施設をどのようにフォローしていくのか。

要は、県内どこへ行っても安心して観光できるという状態をいかにつくるかということで、補助申請があったところだけをターゲットにしておいて大丈夫かと気になるころです。

これも把握のしようがないかもしれませんが、例えば地元の観光協会などを通して、どの程度対応できているか、概数でもいいのでその辺りを把握していただき、行き届いていないところにどのように手を伸ばしていくのかをこれから考えていただく必要がある。

今回の新型コロナウイルスに限らず、感染症が発生したときに、どこまで県としてフォローしていくのかという全体像が見えていると、今後役に立つ情報になるのではないかと思いますので、その辺りもよろしくお願いします。

3点目は、平城宮跡歴史公園についてです。

朱雀大路東側地区と南側地区の話が出ていて、これは南北にも結構大きなエリアで、真ん中に大宮通りが通っていて、南北を分断する形になっています。一体的に利用してもらおうと思うと、そのつなぎをどうするのか。

今は、信号が1カ所あって、横断歩道があるという状況です。特に南側に何の施設もないため、それはそれでいいのですが、施設ができたときにどうつないでいくのか。歩道橋でつなぐ形になるのか、あるいは大宮通りを半地下にして、そこをハングオーバーさせるような大きなデザインを考えるのか。いろいろ手だてはあると思いますが、その辺りも考えていただく必要がある。

どこで取りつくかということは、プランニングの中で考えていかなければならない話

になるので、基本設計を考えていく中で検討いただきたい。

また、南北のつなぎだけではなくて、国営公園の部分を含めるとかなり広大な施設になります。公園全体をどう見ていただくかということを見ると、公園内の移動をどうするのか。ひたすら歩いてくださいということで済まされるのか。

馬見丘陵公園でも出てきましたが、公園内の移動支援についてもプランニングの段階できちんと考えていただきたい。手段は時代と共に変わる部分もあるので、固定的にはなかなか考え切れないかもしれませんが、今考え得る方法でそれを計画に落とし込むことは、この段階ですでしておく必要があるかと思っておりますので、その点ご検討よろしく願います。

**○藤野委員** 「いまなら。キャンペーン」に関連した質問ですが、当初の見通しが少し甘かったのかと思います。

予約をしなければクーポンを購入できないとうたわれていましたが、結果として予約なしでもクーポンを購入できました。コンビニの発行機では一度に10枚しか購入できませんでしたが、1人で何度も購入することにより、大量に購入することができたため、いわゆる買占めがあったという誤解を生んだのではないか。これを反省材料として、次の販売にしっかり生かしていただきたい。

私の事務所に高齢者の方が来られ、インターネットが使えないため、紙の案内はないかとの問い合わせがありました。私はホームページの情報をコピーしてお渡しし、県民だよりでも案内が出るだろうと言ったのですが、結局9月1日号の県民だよりでは出ていませんでした。タイミングが合わなかったと思うのですが、高齢者に優しい対応ができればありがたいと思います。

今回補正予算がついている部分で11月2日から第2弾が始まるとインターネットにも載っていましたが、これは高齢者に優しい対応をぜひともお願いしたい。今、答えられる部分があればお願いします。

**○谷垣観光局次長（観光政策担当）** 委員の皆様からのご意見の集中しているクーポンについて、高齢者の方への配慮として、特にインターネットを利用しない方でも利用できるよう、旅行会社や宿泊施設に直接予約することでも利用できる設定にしていました。

ただ、結果として、予約をしていただいた方にクーポンが行き渡らなかったという事実がありますので、この辺りはしっかりと対応できる方法を考えて進めていきます。

**○藤野委員** 事業の目的は、県内の落ち込んだ観光産業を盛り上げていきたいというこ

と、もう一点は、改めて奈良県の良さが多くの県民の方々に広く行き渡るようにといった趣旨があると思います。どうか第2弾に向けて、より一層頑張ってくださいと期待しています。よろしくお願いします。

**○岩田委員** 毎回こういう機会をお願いしているのですが、今年は記紀・万葉プロジェクトの最終年度ということで、最終年度にふさわしい祭典の特別展「出雲と大和」が東京国立博物館で開催されました。順調な滑り出しでしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2月末で閉幕しました。

最終年度はこのような状況ですが、来年は聖徳太子没後1400年遠忌ということで、このことは知事にも進言していて、今日は文化・教育・暮らし創造部長が出席していませんが、この辺りは文化・教育・暮らし創造部が取り組むと聞いています。観光局との横のつながりが大事であり、来年に向けて、両部局で協力してやっていただきたいのですが、土屋観光局長、何か思いはありますか。

**○土屋観光局長** ご指摘ありがとうございます。春日大社の式年造替以降、観光キャンペーンの大きな予算をお認めいただき、毎年ターゲットになるメモリアルな出来事をその年の旗印にして取り組んでいるところです。

聖徳太子没後1400年遠忌については、来年度のターゲットとして取り組んでいるところであり、具体的なやり方、内容等については今後よく検討することになると思うが、観光キャンペーンの大きな柱の一つとして既に位置づけられているということをご報告させていただきます。

**○岩田委員** 意気込みを聞きましたが、今後、観光局と文化・教育・暮らし創造部との横のつながりを密にして、新型コロナウイルスの収束状況もありますけれども、来年に向けてよろしくお願いします。

**○和田副委員長** 私からは2つ質問があります。1つは奈良県の観光について、もう1つは記紀・万葉プロジェクトの今年以降の展開についてです。

奈良県の観光については、4月の臨時県議会、あるいは6月定例県議会などで、大変な状況の中で観光業界を何とかしなければならぬということで施策が打ち出されています。これまで、各委員から出されました大切な要望、あるいは質問への回答を具体化していただきたい。

私は常々、観光振興で周遊コースをつくれればどうかと言っています。周遊コースの利点は2つあります。1つは魅力的な観光スポットをつなぎ合わせることができること、

もう1つは、市町村にまたがる周遊コースを集めてこそ物語、歴史ができるということです。こういった2つの利点を生かした周遊コースが必要ではないかと思います。

ところが、奈良県のモデルコース、例えば周遊コースを見ますと、17件ありますが、どれ一つ物語、歴史がないという不満を感じています。インターネットで探しましたが、残念だけれども私の地元の記紀・万葉についての周遊コースもない状態です。

周遊コースをつくることについて真剣に検討していただきたい。

次に、市町村との連携について、観光地については、県でも情報を集めていますが、市町村が詳しい穴場を知っています。市町村のやる気を引き出して、県と共に協力し合う、連携し合うことが大切ではないか。もっと奈良の魅力を引き出す方法を考える必要があるのではないかと思います。食、観光土産品、宿泊施設等の資源が数多くありますので、そのような資源を引き出すことが必要だと思います。要はこの資源を引き出せるかどうかだと思い、以前、県と市町村が一緒になってブランドをつくっていくことを提案しましたが、どうお考えなのか。

次に、奈良県ビジターズビューローとの連携について、ビューローでは事務処理に関して様々な問題がありました。そのことは置いておいて、これからビューローと一緒にあって観光施策を推し進める必要があると思います。

こういった点で、どのように具体案を出していくのかをお聞かせいただきたい。

**○桐田ならの観光力向上課長** 和田副委員長のおっしゃるとおり、広域市町村を周遊するルートの設定や、それに物語をつけることは非常に大事なことだと考えています。

記紀・万葉のルートがないというお話がありましたが、実を言いますと、県内各地に点在している歴史文化資源を周遊するコースをストーリー、テーマ別に設定させていただき、「歩く・なら」というホームページで紹介しています。

例えば「記紀・万葉でたどる奈良」というカテゴリーを設け、記紀・万葉集の世界をじっくり訪ねるルートという内容で、例えば記紀編さん事業の始まりの地というようなルート、それ以外に記紀・万葉として17ルートを設定しています。

さらに、「奈良国宝・古墳めぐり」というカテゴリーも設けていまして、「いにしえから続く時代の風にふれるルート」として、例えば「山の辺の道 天理・桜井 街道がつなぐ国宝と古墳」ということで7ルートを設定しています。それ以外に、全体で14のカテゴリーで125のルートを紹介しています。

「歩く・なら」のホームページには、年間120万件を超えるアクセスがありますが、

そこが県民もしくは県外の皆様にしっかり周知ができていないということでしたら、ホームページを工夫しながら、多くの方の目に触れるような改善をさせていただきたいと考えています。

次に、観光地づくりと申しますか、市町村と連携した取組をしっかりと支援したらどうなのかという質問を頂戴しましたが、やる気のある市町村と連携して、観光地としての奈良の魅力づくりを推進するために、魅力ある観光地づくり推進補助金により、例えば各市町村、観光関連事業所が行う地元食材を活用したメニューづくりや体験メニュー等に関して補助しています。

併せて、奈良の魅力を再発見して、3密回避、疫病平癒等の新たな生活様式を意識した県内周遊を促す旅行商品の造成や、歴史文化資源や自然景観、宿泊や食事等の魅力に加え、この時期ですので感染防止対策の取組を県内外にPRして、安心・安全な魅力ある観光地としてのブランドづくりに取り組んでまいります。

**○葛本観光プロモーション課長** 奈良県ビジターズビューローにつきましては、魅力的な観光地域づくりや高度な戦略に基づく情報発信やプロモーションを行うDMOとしての役割を期待しています。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、現在、首都圏あるいは海外からのお客様が止まっています。ビューローでは、この機会に、3密回避や自然環境などの新たな観光ニーズに適している17地域を中心に着地整備や観光資源の磨き上げ、あるいは職員研修の実施、インターネットを活用したオンラインツアーを企画するなど、今後のインバウンド誘客に向けて、積極的にお客様を迎え入れる仕組みづくりに取り組んでいます。

県におきましても、記紀・万葉や、来年の聖徳太子1400年遠忌関連の大きなイベントについて、ビューローとも連携して、新たな商品づくりに励んでまいります。

**○和田副委員長** しっかりと歴史性や物語性を大事にして取り組んでいるとのこと、そのことは理解しました。モデルコース、奈良の周遊コースでホームページを検索すると、1番目に「あをによし なら旅ネット」が出てきます。モデルコースの1つは山の辺の道ですが、ここでは山の辺の道の観光スポットを集めているだけで、これでは、奈良の奥深い魅力に引き寄せられて観光しようという気が起きないと思います。価値観の問題というよりも、観光スポットを集めているだけという嫌いがあります。

もっと奈良の魅力を訴える「なら記紀・万葉」ということをわざわざ県でも打ち出しているし、私たちも同意して応援しているのですから、もっと奈良の魅力を深めるよう



な周遊コースを考えていただきたい。

記紀・万葉プロジェクトの10年が終わるこの集大成年に頑張ってください、アフターコロナ、ウィズコロナとなりますが、取組をお願いしたい。

次に、記紀・万葉プロジェクトについて、今年は最終年ではなく、集大成年と位置付けられました。今後これまでの10年間のプロジェクトの成果が生かされていくことが必要です。

記紀・万葉について、これまで私は3つのことを質問しました。1つ目は、この10年間で蓄積したことをこれからも生かすためにどういった総括をされるのか。

2つ目は、記紀・万葉プロジェクトの10年間が終わりますが、県庁における組織をどのように継承していくのかを示していただきたい。

3つ目は、なら記紀・万葉をどのように発信していくのか。国の始まり奈良、あるいは日本の歴史と文化の源流・奈良ということをうたっています。誇りを持って観光振興に取り組む必要があると思います。これら3つの質問についてお答え願いたい。

**○酒元文化資源活用課長** ここ10年間取り組んできました記紀・万葉プロジェクトの総括ですが、和田副委員長もお述べのとおり、「古事記」完成1300年から本年の「日本書紀」完成1300年の間をつなぐ長期プロジェクトとして各種事業を展開しています。本年につきましても、コロナ禍ではありますが、対策を講じながら各種講演会、イベント等できることを進めています。

長年にわたり多角的に展開してまいりました記紀・万葉プロジェクトにおきましては、様々な記紀・万葉の観光素材も含めまして、ストーリーや発信ツール等を作成しています。このような素材につきましては、今後、新しい観光資源として、観光分野をはじめ、様々な行政施策に活用可能なものと考えています。

今後も引き続き、観光部局とも連携して、県内の記紀・万葉の素材を有効活用し、地域振興につなげてまいります。

引き続き記紀・万葉プロジェクトをどのように進めていくかという質問につきましては、記紀・万葉という言葉自体、今年度当初予算のときの都づくり構想の中ではアフター記紀・万葉プロジェクトという仮称をつけていますが、ネーミング等については来年度以降どう打ち出していくかを含めて検討中です。

これまでに蓄積してきた歴史へのアプローチの手法や発信ツールについては有効に活用していくということで、引き続き文化資源活用課において事業を進めてまいります。

今後、奈良県の歴史文化遺産の奥深さ等の誇りをどのように魅力を発信していくかにつきましても、県民の皆様が自分の地域の歴史を実感し魅力を再発見することで、歴史を大切にする機運を深め、主体的に捉える大切さに気づいていただき、郷土愛の醸成へつないでいただけるような取組を引き続き行いたいと思います。

いろいろな歴史の節目がありますが、来年は聖徳太子1400年遠忌の年です。このように具体的な記紀・万葉の世界の様々な出来事に注目して、その年の施策を展開していきたいと考えています。

**○和田副委員長** 記紀・万葉プロジェクトの組織の話ですが、これからも聖徳太子や藤原不比等の時代に関連したイベントを盛り込んでいくと聞きました。なら歴史芸術文化村もできますので、そういった社会資源を総動員して、一体性を持って国の始まり奈良を打ち出していく、日本の歴史と文化の源流・原点を打ち出していくことでなら記紀・万葉も含めて頑張っていたきたい。

最後の質問ですが、モデルコースについて物語性や歴史と言いましたが、奈良を訪ねたらこのコースが定番だというコースをつくれぬか検討してください。2つでも3つでもいい。そして、県中部、南部へと観光客が足を運ぶような仕掛けに取り組んでください。

奈良は何が特別なのか、格別なのか。そういうことを観光スポットごとに丁寧に説明していく。余談となりますが、ルーヴル美術館には2日、3日、1週間コースがあります。奈良県でもそういった深みを持たせることができないのか。

市町村にも大切に耳を傾けて、自治体との連携を進めてほしいと思います。市町村と連携した観光促進についてどう考えているのか、土屋観光局長、考えを示してください。

**○土屋観光局長** 和田副委員長より周遊ルートの設定や、滞在型観光の促進に向けた幾つもの示唆を頂きました。頂いた意見を踏まえ、できるところをしっかりと検討してまいります。

ご質問のあった、市町村との連携等については、県単独のものに加えて、市町村でも独自で様々な魅力発信、あるいは独自の組織での観光振興など積極的に取り組んでいただいているところもあります。また、その観光資源についても、保管・保全も含め、市町村で積極的にやっけていただいているものが多くあります。

今、観光局として県民の方に県内をもう一度知っていただくといったことにも取り組んでいます。加えまして、徐々に以前のように県外の方にもと考えています。

いずれにしても、県に観光で来ていただく方、県内を巡っていただく方は、市町村の取組か県の取組かについてあまり意識をされないと思います。そういう意味で、県でも市町村と観光振興という同じ目的に向かって連携していくことが必要だと考えています。

○和田副委員長 奈良を観光した人が県中部、南部に流れていくことは、これまでも少ししか起きていません。県中部、南部へ観光していただくような取組、誘客促進を進めていただきたい。

○松本委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

ほかになければ、これをもちまして質問を終わります。

それでは、理事者の方のご退席願います。ご苦労さまでした。

委員の方はしばらくお残り願います。

(理事者退席)

ただいまから委員間討議を行います。

委員間討議もインターネット中継を行いますので、マイクを使ってご発言願います。

参考に、これまでの委員会で各委員から頂いた意見等を整理した資料をお手元に配付しております。前回の委員会で出た新たな意見については赤字にしています。

それでは、今後、当委員会で取り組むべき方向、また特に議論を深めるべき課題や論点等につきまして、ご意見を頂きたいと思えます。

○佐藤委員 ここで取りまとめてあるものに付け加えて、さらに突っ込んだ審議が必要かと思っている点が2点あります。

今日も私と樋口委員から話がありましたが、平城宮跡歴史公園の整備計画、特に動線計画やその中身の設計については、これまでお任せ感があったかと思えます。

今、奈良公園バスターミナルでも起こっている動線の問題については、設計がこういう形でなければいけないのか。奈良県では有人管理を前提とする癖が少しあると思えます。今も平城宮跡歴史公園の北側の部分には警備員が立っておられますが、そもそも無人管理ができないのか。

これは警察から言われているということですが、正直な話、歩行者に対する動線を少し考えて設備を配置すれば、これはクリアできる問題だと思いますし、動線についての突っ込んだ審議も必要になってくるかと思えます。

また、バスを入れるのであれば、その動線計画をもう少し掘り下げて、施設について、例えばトイレはどのような位置に設置されているのか、こういった店舗が入ってくるのかといったところまで審議をしていかなければならない。今、施設がどんどん誕生している中で、新型コロナウイルスの影響により、どの施設も閑古鳥が鳴いているかと思えます。これからインバウンドも戻ってくる、観光需要も戻ってくる、その起爆剤として、万博も近いことですし、私達も魂を込めてぶつかっていく必要がある、あまりお任せにしないほうがいいかと思えます。

もう一点は、ここに加えて、バス戦略について委員会として求めていく形が私は望ましいと思っています。皆様のご意見を頂けましたら幸いです。

○松本委員長 ご意見ございますか。

○乾委員 佐藤委員が言われたとおり、バス対策についてもこれから協議を進めていけばいいかと思えます。

○松本委員長 ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

それでは、ただいまの意見を踏まえて、協議を進めてまいりたいと思いますが、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

ほかにありませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

これをもちまして、委員会討議を終わります。

それでは、これをもちまして、本日の委員会を終わります。